

ているが、支店はふるわないとすると、本店から優秀なものを支店に回して会社全体としての発展の措置をとることになるであろう。この場合個人的な事情で支店の方に行きたくないというものはゆるされないと考えられる。

教育は日々成長してやまない生徒を対象とし教師の人格にまつことが大であるから、会社や官公庁とは同段には論ぜられないだろうけれども、市内の学校が充実した教員組織で教育の実績もあがり、一方周辺校の学校にこれがともなわれないという状態になれば教育行政上これを放置することができないのは当然である。従って個人の事情もある程度しので貰い、交流をはからなければならぬ場合のあるのはまたやむを得ないことである。

学校の事情を考え、個人的な事情も汲み、しかも全体的な教育の立場から一つの理想を実現しなければならぬのであるから容易なことではない。

学校長としてはよりよい教員組織を望み、かつ教員の個人的事情を考慮し、また永年勤続の労にも報いたいと、学校を思い、個人を思い、その労苦は筆舌には尽しがたいものがある。県教委においても学校長の意志をじゅうぶん尊重して実施したいし、さればといて全面的に意に添うことは到底不可能なことであり、合議の話し合いは難行し、回数も重なり、いつの合議もほとんど徹宵におよぶ有様であった。三か年間に全員交流を目標としてすすめてはきたが、

これ以上の無理を重ねることは却って教育上プラスにならない点も認められたので若干残すこととなった。

残すことになった理由

- 1 工業課程等で他校に交流の対象がなれないこと。
- 2 身体的事情（療休復職者、身体的欠陥のあるもの）により交流が困難であること。
- 3 教科上、学校運営上、その学校として欠くことができない事情のあること。

以上によって十年以上同一校永年勤続者の交流状況は次のとおりとなった。

昭和三十年度末十年以上同一校勤続者の三か年異動件数調

方 部	三十年度末三か年間の異動件数		同上率 %	未異動者数
	上	末		
県北	八六	七二	八三・七	一四
県南	八三	六七	八〇・七	一六
会津	八三	六五	七九・二	一七
石城	六二	五五	八八・七	七
双城	五三	四四	八二・五	一〇
相双	三六	三〇	八二・六	六
計	三六七	三〇三	八二・六	六四

(3) 退職について

年令的にも能力的にもまだまだ勤務いただきたい有能な方々にも数多く退職願わなければならなかったのは実に残念なことであるが、県財政上やむを得ないことであり涙をのんで後進に道を譲っていただいた。退職条件等については永年の功勞にむくいるため最大な考慮をばら

た次第である。

(4) 新採用について

次の表にみられるように多数の志願者の中から実に優秀な新人を比較的多く採用することができたことは本県教育上誠に喜ばしいことであり、この点今年度末の明るい特色である。

県立学校教員新採用者調

志願者	新採用者	社 理 家 保 音 英 商				
		農 工 図 工 国 数 計	用 者 採 用 者			
一〇八	一〇	一	二	三	八	二
七	二	一	二	三	六	六
五	一	一	二	三	六	六
四	一	一	二	三	六	六
一	一	一	二	三	六	六
五	一	一	二	三	六	六
七	一	一	二	三	六	六
六	一	一	二	三	六	六
九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二

最後に総異動件数を昨年度末と比較してかかげることとする。

昭和32年度 県立学校教職員年度末人事異動件数

① 高等学校 ()内は31年度末異動件数

	教 員					事 務 職 員					合計	備 考
	教諭	講師	実習助手	小計	備 考	事務職員	雇 用	助手	傭人	小計		
退 職	42 (43)	58 (61)	3 (1)	103 (105)		4 (2)	1 (5)	(4)	21 (12)	26 (23)	129 (128)	
転 補	251 (249)	2 (2)	1 (0)	254 (251)		4 (1)	1 (1)	(1)	4 (1)	11 (4)	265 (255)	
新 採 用	81 (68)	10 (10)	2 (4)	93 (82)	教諭のうち他県現職から2 中学校から19	6 (1)	1 (2)		16 (13)	23 (16)	116 (98)	
任 用 替	12 (22)	(0)	1 (0)	13 (22)							13 (22)	
合 計	386 (382)	70 (73)	7 (5)	463 (460)		14 (4)	3 (8)	2 (5)	41 (26)	60 (43)	523 (503)	